巡礼その五十二　奄美大島

2020 年 11 月 30 日
４時起床、４時３０分コロナ禍の中、車で羽田に向かう。羽田に着いてもチェックインカウンターはまだ開いていない。今回コロナ禍のために羽田→鹿児島間は予定通りであるが、鹿児島→奄美大島間は予定した便がキャンセルになり、鹿児島での乗り継ぎに２時間（予定では２０分）もかかってしまう。荷物を預け機内へ。予約した席は唯一の二人掛けであったが、トイレの前で落ち着かない。今回の旅行中の天気予報は５日間、全て曇りと雨である。低気圧の影響だそうだ。とにかく自分の晴れ男に頼るしかない。鹿児島空港に着いたが到着ロビーにレストランがないので、面倒であるが一度チェックアウトして空港の中にある「ロイヤル」へ行く。私はフレンチトーストセットで妻はハムサンドセットを食べる。奄美大島行きは小さいジェット機で 11 時１５分に奄美大島到着。すぐに「黒うさぎレンタカー」に電話して迎えに来てもらう。天気は曇りで雨は降っていない。気温も２２度ぐらいで過ごしやすい。「黒うさぎレンタカー」はとても小さな会社でオバちゃんと迎えに来てくれた人のふたりで全ておこなう。ダイハツの軽自動車を借りて出発。風景はさとうきび畑を除けば沖縄よりも八丈島に似ているので驚いた。とてもワクワクする。ナビで小湊という所へ向かう。途中さとうきび畑の中の農道を通った時、十字路で徐行しないで通ろうとしたらもう一つの道からトラックが徐行なして入ってきた。周りは一面２m ぐらいのサトウキビで視界がとても悪く、窓を閉めて妻と話していたので全く気付かなかった。もちろん一時停止の標識や停止線などもない。あと１～２秒遅れていたら十字路で衝突していた。注意して運転しよう。その後、大きな道に出て海岸沿いを走っている時にハートロック（ハート岩）の小さな看板が出ている。ここへ行きたかったので寄ってみる。車を停めてとても雰囲気のあるジャングルを抜けると海岸へ出る。１００m 先の岩場に人がチラホラ見える。近寄ると写真で見た岩の一部がハート型になって、そこに海水が溜まっている。とても綺麗なブルーで思ったより美しい。ここは満潮になると海の中に消えてしまうので良い時間帯に来れてよかった。お昼になったので近くに有名な鶏飯「ひさ倉」があったのでオススメの鶏飯を食べる。鶏飯は以前

鹿児島で食べたが、ここ奄美が発祥である。とても美味しい。小湊の集落へ行き目的の厳島神社へ迷いながら行く。ここに弁財天十六童子が祀られているが扉が閉まっていて中が見えない。諦めて次の目的地である節子に向かう。奄美を横断している唯一の国道５８号線はトンネルが多い。それも長い。したがって道はあまりアップダウンしないが、国道から逸れた集落へ行くには大変である。とても急な峠を越えなければ目的の集落へ行けない。集落は海の側にあるので峠の上からの眺めは素晴らしい。節子の集落もとても美しい海岸を持っている。目的の節子小学校へ行く。ここに奉安殿が残っている。奉安殿とは戦前の学校に必ず設置されていた施設で、天皇皇后両陛下の写真（御真影、御影ともいう）及び教育勅語を安置していた建造物である。その後、文部省次官通牒によって、全国の奉安殿を小学校から全面撤去する具体的な指示が出て、御真影は焼却されたほか、建物の多くは解体されたが解体を免れた奉安殿がまだ全国にも残っている。特に奄美大島には７箇所見学可能なところがあり、興味のある石造物がない奄美大島なので、これを旅行の目的に組み込むことにした。その始めが節子にある節子小学校の奉安殿である。今は廃校になっているが校庭の隅に奉安殿は立っていた。奉安殿はほとんどコンクリート造りで丈夫な観音開きの扉がついた高さ２m 幅 1.5m 奥行き 1.5m ぐらいのボックス状で屋根は神社風である。外観には細かい規定は無いので、少しずつ細部が異なる。費用は国が出すのではなく、地方の有志によって建てられた。節子小学校は現在校舎を利用してファームを作っているようだ。ヤギを飼っており、ピザの窯もある。今日の宿泊地古仁屋へ向かう。古仁屋小学校にも奉安殿がある。この小学校は立派で奉安殿は大きな松の下にある。奉安殿は神社風ではない。まだ時間があるのでホノホン海岸へ行く。奄美の海岸は砂浜であるが、ここは波が荒く、丸い小石の小さな海岸でとても美しい。近くにあるヤドリ浜へ行く。ここは対照的に穏やかで白い砂が美しいビーチで海の色がとても美しい明るいブルーである。海岸はアダンで覆われ実がなっていた。奄美に暮らし沢山の作品を残した中村一村の作品のようである。町に戻り、サンフラワーシティホテルにチェックインする。とても渋いホテルで我々の部屋は最上階の６階で、この階全てを使った特別室であった。おそらく 80 平米はあり、ベッド４つ、デーブル、ソファー、にトイレ、風呂がまたとっても広い。ベランダが屋上になっていて、以前はビアーホールだった。海と港がよく見える。夕食は予約をしておいた肉料理の「リブ」へ行く。場所は小川を渡ったホテルの３軒先にあった。客は我々だけである。なんと今日、この古仁屋の町で初のコロナ患者が出た。そのため注意喚起する宣伝カーが廻っている。まず前菜３種盛り（生ハム・モッツァレラチーズ・レバーペースト）、ローストビーフサラダ、砂肝のアヒージョ、有頭エビフライ、ハンバーグで締めにポークガーリックライス

（ガーリックライスにポークソテーが入っている）を食べる。明日は加計呂麻島へ渡る。加計呂麻島には食堂がほとんど無いのでランチは持って行った方が良いとガイドブックに書いてあるので、フライドチキンとフィッシュ&チップスを作ってもらい、コンビニでパンを買って持っていく。ホテルに戻り９時半消灯。

12 月１日
４時 30 分起床、５時 45 分フェリー乗り場へ行く。真っ暗で周囲がよくわからない。６時過ぎに係りの人が来て駐車場を教えてくれた。チケットを買い車と共にフェリーに乗る。天気はなんと晴れである。まずは一番西にある美久海岸まで行く。道は細く対向車はほとんど来ない。美久海岸は美久ブルーと言われるほど海が美しい海岸である。ここから薩川小学校へ奉安殿を見に行く。加計呂麻島には奉安殿が三つある。薩川小学校は大きく立派で校庭の隅に奉安殿はあった。すぐ前は海である。過疎化で児童７名、職員７名で頑張っている。次の木慈小学校は 38 年前に廃校になり現在は門を残し畑になっている。門のすぐ近くに放置された奉安殿はあった。扉がボロボロになり雑草に覆われていた。近くの武名の集落にある巨大なガジュマルを見に行く。集落を抜け小川に沿った細い道を分け入ると巨大なガジュマルが現れるが、武名のガジュマルはその奥にある。あまり巨大すぎてわからなかった。それは沢山の寄生する植物に覆われていた。気根がすごい。次は嘉入の滝を通って須子茂小学校へいく。嘉入の滝は道路からすぐ見え、落差が結構ある。周囲にはヒカゲヘゴなどが茂り雰囲気がある。嘉入の集落を抜け須子茂小学校へ行く。正面がわからず裏口から入る。２年前に廃校になっているがとても楽しそうな小学校である。校舎も周りの施設の校庭も小さいながら、とても雰囲気のある学校である。特に校庭には素晴らしいシンボルツリーの大木があり子供達が登って遊べるようにハシゴやネットが張ってある。この木にはケンムン（奄美の妖怪・妖精）が住んでいて、子供達と遊んでいたに違いない。私もこんなに楽しそうな小学校ならもう一度入学しても良いと思う。奉安殿は校庭の奥に蜘蛛の巣だらけになって建っていた。ここで気の合う仲間たちと自給自足の生活をするのも悪くない。嘉入の集落にはどうしても寄りたい「まーさ」というジャムの店がある。細い道路にとても小さな看板が立っている。知らなければ見落とす。集落の突き当たりにあり、看板はない。それらしき店（家）は閉まってる。がっかりして車に戻り、一応電話してみるとすぐに店を開けるとのこと。店に戻ってお土産のジャムを買う。オーナーの女性と少し話をして車に戻るとお昼だったのですぐ前の海岸で「リブ」で作ってもらったランチを食べる。ここの海岸も大変美しい。こんな場所には観光客は来ない。日差しが強く真夏のようである。次は西

阿室の集落にある教会を訪ねる。珍しいマリア観音を見るためである。うなぎが生息する小川の脇に教会はあった。鍵かかかっていて入れないのではと思ったが、張り紙がしてあり、ご自由に見学してくださいと書いてあった。マリア観音は祭壇の隣のガラスケースに入って安置されていた。於斉のガジュマルは武名のガジュマルと違い、海岸にとてもきれいに整備されて生えていた。前のビーチも綺麗である。ここに続いて諸鈍ディゴ並木がある。ここは「男はつらいよ」のロケに使われたところで有名である。今、花は咲いていないが、この並木が真っ赤な花に染まったらさぞ美しいであろうことは想像に難くない。そろそろフェリー乗り場に戻る時刻である。時間があるので港にあるお土産物屋で買い物をする。古仁屋港へ戻り、宇検村に向かう。ここの厳島神社には石造の弁財天がある。ここを見学して奉安殿のある今里小学校へ行く。今里小学校は海の前にある立派な小学校で広い校庭を持っているが奉安殿は見当たらない。車が入ってきたので運転していた人に聞くと、校舎の裏にあるそうだ。はたして校舎の裏に奉安殿はあった。掃除も行き届いて大切にされていることがわかる。本日の最後は大和浜にある群庫である。ここには穀物を貯蔵する高倉が５つ立っている。八丈島の高倉に似ている。もう５時を過ぎておりだいぶ暗くなってきたので名瀬にある「山羊島ホテル」にチェックインする。途中名瀬の街は夕方の帰宅ラッシュで渋滞していた。ホテルの最上階には温泉大浴場があり露天風呂がついている。このホテルは島なので、露天風呂からは海がよく見え最高である。海風がとても気持ち良い。温度もぬるめで良い。夕食は外に出るのがめんどくさくなり、一階のレストランへ行く。刺身の盛り合わせ、タコの唐揚げ、生ハムのサラダ、メインは焼きそばである。部屋に戻り、10 時に消灯。

12 月２日
５時起床、６時にサウナに入り、露天風呂へ行く。天気が心配だったが雨は降っていない。周囲が明るくなってきてとても気持ちが良い。７時に朝食。８時出発する。ホテルの入り口にメー太、メー吉の２匹の羊がいるので挨拶して出発。住用町の東仲間の公民館にあるシマタテダプキの大木を見に行く。しかし公民館を探しても見当たらないので近所の人に聞いたら、前回の台風で倒れてしまったので処分したとのこと。近くにあるミヤーを見に行く。ミヤーは集落を守る神で神聖な石などを祀ってある。昔から大事な集落の行事はこのミヤーと呼ばれる場所で始まる。天気は曇り時々晴れでまずまずである。
近くにある師玉家墓地には素晴らしい石仏が祀ってある。住用川の近くに小川が流れている。この小川の少し深くなっているところは小さな滝になっていて神のたどり着く場所で、キョンコと呼ばれている。ここは子供達の水遊び場に

なっている。ここからマングローブの原生林のところへ行き石抱きガジュマルを見に行く。道路の横の大石にガジュマルが生えている。ガジュマルが大石を抱きかかえているようだ。道沿いに奄美アイランドという建物があるがどうも営業していないようだ。休園日かもしれない。ここは原野農芸博物館であったらしい。入り口を入ったところに昔の船や電車が展示してある。その先に不思議な石仏が並んでいる。私にとってはとても興味深い石仏である。大浜海浜公園へ行ってみる。とても美しいビーチを持った美しい公園である。奄美博物館は新しい綺麗な博物館でアマミノクロウサギやリュウキュウイノシシ、ケナガネズミ、リュウキュウアカショウビンなどの剥製がある。特に興味深いのはノロの装飾品で沖縄とは若干違うようである。野外展示してある奄美の民家が面白い。ここでケンムンのバックを買う。次はとても行きたかった田中一村の終焉の家である。写真で見た通り、周りの植物もそのままで、ここで製作していたことを考えると感慨深い。30 年前に一村の絵を初めて見た時の感動がよみがえる。お昼になったので近くのラーメン屋「とん太」でみそねぎチャシュー、妻はチャーシューメンを食べる。とても美味しいが驚いたのは餃子である。まさに絶品である。熊龍王神社へ行ったが鍵がかかっており内部にある石造弁財天像は見れなかった。龍郷町の秋名の集落へ琉球石垣を見に行く。とても立派な石垣で個人の家である。琉球から職人を呼び寄せたそうだ。19 世紀の豪農麻福氏の財力が偲ばれる。秋名集落にある文化財の看板に、旧秋名小学校旧奉安殿が載っていたので地図を確認していく。今は空き地になった奥に奉安殿があった。入り口のドアーは無くなっていたが周りは下草狩りがなされていた。同じ龍郷町の熊作には仏像墓がある。笠利家の墓で 1725 年のものである。等身大の地蔵を彫った墓石と、破風式の墓石、などが墓地にある。かなりの腕の彫り師のようだ。破風式の墓石も彫刻が良い。次は瀬留の集落に行く。文化財になっている瀬留カトリック教会があるからだ。とても味のある建物で内部に入って写す。鐘撞堂が素晴らしい。瀬留の交差点に高倉がある。ここには４つの高倉があり、寄贈者の名前が書いてある。本日の最後は赤尾木にあるハヤへ行く。ハヤとは人骨を納めるために板石で囲いをしたもので初めはノロの墓であった。すぐ前の浜はとても美しいビーチである。今日は赤木名にある伝泊ミジョラに泊まる。伝泊に行ってチェックインしてコテージの鍵をもらう。ここから車で５分ぐらいである。海岸線にコテージが６つほど並ぶ。部屋はコンクリート打ちっ放しの１ルームでベランダにテーブルとデッキチェア、ハンモックがあり、階段で砂浜に降りられる。まさにプライベートビーチである。白い砂とエメラルドグリーンの海である。階段の周りはアダンでとても雰囲気がある。対岸には遠く灯台が見える。部屋は玄関を入るとガラス張りでツインベッドとミニキッチン、電子レンジ、バルミューダ、ワインクーラー

（ワイン入り実費）冷蔵庫、調理具全部など、隣は海が見えるタイル張りバス、本格的シャワー、裏に洗面所、トイレ、クローク、さらに奥に書斎が、全てドアーなしである。風呂に入り、ベランダでゆっくりして夕食を食べに行く。赤木名の集落は食べ物屋が数件しかない。伝泊の隣にある郷土料理「ガジュマルの樹の下で」に行き、貝の塩茹で、鶏皮のサラダ、ホルモンの炒め物、骨付き豚の黒砂糖煮、夜光貝の刺身（滅多に食べられない絶品）、油そうめんを食べる。８時にホテルに戻り、ベランダでボーとして９時半消灯。

12月3日
５時起床、風呂に入り、７時朝食。朝食はホテルの人が冷蔵庫に朝食のセットを入れておいてくれた。この日も曇りだが、雨は降っていない。このホテルは１泊朝食付きである。セットを開けると生ハムサラダ、チーズ、パン、ジュース、ヨーグルト、バナナ、キウイが入っている。今日は午前中、マングローブのカヌーツアー、午後は金作原原生林散策ツアーで丸一日である。９時３０分、アイランドツアーの駐車場集合で少し早めの８時に出発する。天気は曇りである。９時 15 分ごろアイランドツアーの人が私と妻を迎えに来て、マングローブまで連れて行ってくれる。ここに２組が集まり、簡単な説明があり、３組で出発。私と妻は二人乗りに乗り、私は写真が撮りたいので前に乗る。これが失敗で後ろは舵取りなどしながらかなりハードである。川を下だり、マングローブの原生林へ入っていく。とても楽しい。しかし舵がうまく取れないので時々原生林に突っ込む。細い水路に入ったり、川が合流している場所などを通り、中州に上陸してひと休み。帰りは潮の関係でなかなか進まない。なんとかやっと元の場所に戻る。お昼ご飯がツアーについているので名瀬の町に戻る途中、ガイドがとても大きなエンドウ豆のような実がなる「モダマの群生林」に案内してくれる。お昼は有名な鶏飯「鳥しん」で鶏飯がついている。別料金で鳥の唐揚げとパッションフルーツジュースを頼む。ここも美味しい。時間になったら午後の金作原原生林散策ツアーのガイドが迎えに来た。参加者は我々の他に若いカップルで出発。ついに雨が降ってきた。目的地まで１時間とても狭い山道をワゴンは登っていく。対向車が来たらすれ違えない細い坂道、おまけに雨、自分で運転することを考えただけでゾッとする。なんとか金作原の入り口に到着、雨はかなり降っているのでガイドからビニールカッパを買う。そして傘を貸してもらい出発。雨がかなり降っているが霧も出て結構いいムードである。ガイドがいろいろ樹木の説明をしてくれる。ハイライトの一つは 10m 以上あるヒカゲヘゴの群生でまるでジュラ紀のようである。ゴジラの撮影もここで行なったそうな。どんどん進み、道は突き当たりで左右に分かれる。左の道をさらに進むともう一つのハイライト、オキナワウラジロカシの大木であ

る。結構急な坂を下りると樹齢 150 年以上で根が板根になっている巨木が見えてくる。サキシマスオウと間違えるほど立派である。ここで終了、来た道を戻る。とても楽しいツアーであった。駐車場まで送ってもらい、ホテルに戻る。時間は５時を過ぎているのでホテルに戻ると６時半ごろになってしまうので、コテージに戻らず、伝泊のレストランで夕食にする。島豆腐の揚げ出し、さつま揚げ、海鮮のアヒージョ、チキン南蛮、油ソーメンなどを夕べ、コテージに戻り、風呂に入って９時に寝る。

12 月４日
５時起床、６時に風呂に入る。曇りだが雨は降っていない。６時 30 分冷蔵庫の朝食を食べる。今日はサラダ、ソーセージ、パン。ジュース、ヨーグルト、りんご、みかんである。８時にチェックアウトして出発。赤木名の先にある蒲生神社を目指す。半島の突端の山の上にあり、とても不思議な神社でこんな不便なところに来る人はほとんどいない。奄美大島の他の神社と同じで平家に関係のある神社である。とても面白い石造の仁王と狛犬がある。見晴らしは素晴らしい。奄美市歴史民俗資料館へ行く。ここも誰も来そうもない場所である。200 円で係りの人が一人だけいる。厚い黒縁のメガネをかけたいかにも学芸員という男の人で一日中一人で机に向かっているようで好感が持てる。ここには考古資料展示室と民俗資料展示室の２つの常設展示室があり、アマミノクロウサギの剥製や私の大好きな石仏、骨壷が数点展示されている。ほとんど沖縄のものに近い。夜光貝の工芸品も興味深い。今日は私たちだけであろう。重文の泉家住宅はすぐそばで同じ敷地に泉さんが住んでいる。この建物がどうして重要文化財なのかよくわからない。高倉もある。薗家庭園・住宅も重文である。とてもわかりにくく、地元の人に聞いてやっとわかった。とても狭い道を登って丘の上に行く。すると住宅がありその周りには素晴らしい庭があった。亜熱帯特有の植物を上手に配置し、庭園内を小川が流れている。小さい庭であるが見応え十分である。奄美に住むならこんな庭を持ちたいと思う（風水によって作られている）。それにしてもこんな山の中（山グスク）にこれだけの庭を作った財力に驚く（薗家は琉球王国とのつながりがある）。薗家の庭はそれ全体が神を祀る清浄な空間 ミャーとして機能している。ここで琉球の使者を接待したり、お祭りなどの重要な行事を行った。一年にいったい何人の観光客が訪れるのか、おそらく一桁であろう。ケンムン村へ行く。ここに重文の安田家住宅、アシャゲ、クルー石（砂岩）の納屋がある。ここは昔グスクだったそうだ。近くの平家墓地には面白い墓石があり、人物や模様が彫られている。笠利町の和田にある石敢當は探すのに苦労した。同じ場所を４、５回探してやっと見つけた。最後は奄美パークへ行く。今回の旅行のメインのひとつ田中一村

美術館が隣にある。ここは美術館の建築自体に興味がある。高倉をイメージして水の上に立っている。中に入り、作品を見て歩く。どれも素晴らしいが、一番感動したのは自筆の日記でお金がなくて困っていることを切実に書いてある。先に見た終焉の家を思い出し涙が出そうになる。隣の奄美パークは博物館のようになっており、とても楽しい。映画も見た。ここでお昼を食べようと思ったがなんと団体の貸切であった。レンタカーを返し、空港へ送ってもらう。空港にあるファミレス「ジョイフル」でカツカレーを食べる。帰りの便は直行便でＪクラスなので楽だと思う。とても楽しい島であった。
ありがっさまりょーた！